

富士宮西ロータリークラブ 会報



Rotary



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

国際ロータリークラブ第2620地区 2021～2022年度 RI会長 シェカール・メータ
会長 今村 一徳 幹事 矢部 英樹



例会場より

例会場 ゲストハウス フォレストヒルズ 例会日 毎週金曜日 月の最終週 夜間
事務所 〒418-0034 静岡県富士宮市黒田 205-1 ゲストハウス フォレストヒルズ内
TEL 0544-22-8899 FAX 0544-22-7666 Mail fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp

NO. 28 通算 1480 号 2022年4月1日(金)

(本年度 No.26 通算 1478 回 No.27 通算 1479 回は新型コロナウイルス蔓延防止措置のため中止)

ゲストビジターの紹介

ゲスト ホブスメディアネットワーク 小山様
ビジター 池谷滋雄様 (富士宮RC)

会長挨拶

会長 今村 一徳 君



今日は久々の例会となり、皆さんの変わらない笑顔にお会いできてホッとしています。

いよいよ私の会長職も残り3ヵ月、コロナで振り回された9ヵ月間のように感じています。そのコロナウイルス感染も、そろそろ収束方向に向かい、少しずつ日常を取り戻しているように感じています。繰り返しの感染拡大の不安は尽きません。

またウクライナとロシアの争いについては不安ばかりが募り、一刻も早い停戦終息を願うばかりです。本日、このウクライナへの人道支援活動の一環でロータリークラブとしてのご案内や富士山吉原RCよりのご依頼などをいただきました。後ほど詳細報告をいたします。

また本日は次年度に向けて新体制例会のハイブリッド例会スタイルのデモを始めております。このスタイルについても後ほど報告させていただきます。

さて本日は4月1日、エイプリルフールの日とも言われます。ウィキペディアで調べてみました。エイプリルフールの起源は全く不明であり、いつどこでエイプリルフールの習慣が始まったのかは分かって無く、有力とされる起源説も確証がありませんが、仮説の域でその一例を報告いたします。その昔、ヨーロッパでは3月25日を新年として4月1日まで春の祭を開催していましたが、1564年にフランスのシャルル9世が1月1日を新年とする暦を採用し、これに反発した人々が4月1日を「嘘の新年」とし、馬鹿騒ぎを始めました。しかし、シャルル9世はこの事態に対して非常に憤慨し、町で「嘘の新年」を祝っていた人々を逮捕し処刑してしまい、処刑された人々の中には、まだ13歳だった少女までもが含まれていました。フランスの人々はこの事件にショックを受け、王への抗議と、この事件を忘れないために、その後も毎年4月1日になると盛大に「嘘の新年」を祝うようになっていき、その後エイプリルフールは世界中に広まり、ポピュラーとなっていったとの説があるそうです。今日一日、楽しく笑えそうな、嘘についてみては如何でしょうか。

幹事報告

幹事 矢部 英樹君

幹事報告参照ください。

出席報告

欠席者 ☆細野芳男 ☆片岡博昌 ☆外木規之 渡辺弘光
渡邊奈津実 仲亀秀樹 ☆は、出席免除者

	計算会員数	出席	欠席	MU	比率
今週	23	20	3	0	86.9%

スマイルボックス

- 久しぶりに皆様のお顔を拝見し心が落ち着きます。 今村一徳君
- 久しぶりの例会、楽しみです 石田道彦君
- ウクライナに平和が戻る日を祈って 貫名英舜君
- 会長エレクト研修セミナーと補助金セミナーの報告をさせていただきます 矢部英樹君
- 7回目のワールドカップ出場を祝して 加藤康雄君
- 例会前に岩本山で花見をしました。 後藤憲治君
- 4月1日は新年度。各々の門出に幸あれと願います。 桜が満開で良い季節です。 伊原謙治君
- 末っ子が幼稚園に入園します。早いものです。 早川英寿君
- 蔓延防止が解除されて約2週間、また感染者が増えているニュース、嫌になります 若林眞治君

お祝い・記念日

入会記念日	渡邊奈津実君	平成29年4月7日
結婚記念日	堀水登志夫君	昭和45年4月4日
創業記念日	今村一徳君	昭和8年4月1日
	堀水東志夫君	昭和33年4月1日
	竹田浩富君	大正2年4月1日
	齋藤邦男君	昭和48年4月2日

本日のプログラム

会長エレクト研修セミナー報告 矢部 英樹 君

先日3月21日に会長エレクト研修セミナーが実施されましたが、所用で受講できなかったことから、送付いただいた資料をもって、此処に報告をさせていただきます。

次年度2022-2023年度にR I会長はカナダのWindsor-Roseland ロータリークラブ所属のジェニファー・ジョーンズ氏です。これまでR I会長に就任されます方は男性ばかりでしたが、R I会長に初めて女性が就任されます。このことでロータリークラブ基本方針の中にある「全ての人に公平」であることが確実に実証されていると思えました。ジェニファー・ジョーンズ氏のテーマ講演内容を拝読させ

て戴き、氏が講演の中で幾つかのロータリークラブという組織の中で短期課題と長期展望の課題について、幾つか述べられておりましたが、拝読して気になった事案をお話しさせていただきます。

まずは、世界平和を構築するには私たち一人一人が公平さ

、人権、地域社会のリソースの公平な配分に尽力して初めて実現に近づくと申しております。これは私達ロータリアンの基本にある「みんなに公平か」です。ロータリーに多様性、公平さ、インクルージョンを採り入れる努力において、インクルージョンのカギとなるのは障害を取り除くことで、そのインクルージョンこそが会員増強の鍵になると申されております。常に私達も、その時その時の状況に適応と改革をし、常に心地良さと配慮が求められると思われるようです。世界中に沢山のロータリークラブが存在しますが、大半のクラブが苦勞しているのは会員の維持だそうです。世界中のロータリークラブが回転ドア式の入っては出るの繰り返しになっているようです。これには、会員がクラブ内の活動で、どのような経験を求めているのか、その時の運営側の役員は、果たしがいのある責任を会員に与える必要があります。そのためには、参加型の奉仕、人間的の成長、リーダーシップ開発、生涯にわたる友情など、これらが目的意識と熱意を生み出す源力になるようで、これが私達役員の責任です。会員に奉仕出来なければ、地域社会への奉仕も出来ません。会員にとって心地よい場所とし、会員への気配りが無ければ、ロータリーの力を本当の意味で理解していただくことは困難、と述べられておりました。

さて、改めて次期R I会長が述べられている次年度のテーマに「イマジンロータリー」という言葉が提言されました。この言葉は私たち誰もが持っている「夢」の実現のための行動への呼びかけであり、それを実現させる責任は自分たちにあると。まずは想像することから。例えば、私たちがベストを尽くせる世界（未来）、ポリオの無い世界、誰もが安全な水を使える世界、疾病の無い世界、全ての子供たちが読み書き出来る世界、これらすべては、「やさしさ」「希望」「愛」「平和」を想像して戴きたいとのことです。だからこそ「イマジンロータリー」になるとのことです。又、私達ひとりひとりが同じように時間を与えられていることを考えましょう。大切なことはその時間をどう生きるか選択するかです。2022年7月1日時計が動き出します。皆さんはこの時間をどう使うか想像しましょう。最後に今一度、「想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を、私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変

化をもたれせることができることを知っています。昨日のことをイマジン（想像）する人はいません。それは未来を描くことです。」ジェニファーR I 会長エレクトは、世界にもたらされる変化を想像して大きな夢を描き、その実現のためにロータリーの力と繋がりを生かすように呼び掛けております。

次に、ロータリー行動計画についてのロータリーのビジョン声明を報告させていただきます。 私達は世界で地域社会でそして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

国際ロータリーとロータリー財団のビジョンを達成するため、今後 5 年間の活動を方向づけるロータリーの戦略的優先事項と目的として、4 つの優先事項が定められました。

1：より大きなインパクトをもたらす

- *ポリオを根絶し、残された資産を活用する
- *ロータリーのプログラム及びロータリーが提供する体験に焦点を当てる
- *活動成果を上げ、それを測る能力を高める

2：参加者の基盤を広げる

- *会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する
- *ロータリーへの新しい経路を作り出す
- *ロータリーの開放性とアピール力を高める
- *インパクトとブランドに対する認知を築く

3：参加者の積極的にかかわりを促す

- *クラブが会員の積極的参加を促せるよう支援する
- *価値を提供するため、参加者中心のアプローチを開発する
- *個人的/職業的なつながりを築くための新たな機会を提供する
- *リーダーシップ育成及びスキル研修の機会を提供する

4：適応力を高める

- *研究と革新、進んでリスクを負うことへの意思を奨励する文化を築く
- *ガバナンス、構造、プロセスを合理化する
- *意思決定における多様な考え方を育てるために、ガバナンスを見直す

最後に 2022-2023 年度地区運営方針を報告させて戴きます
次年度地区運営方針は「絆を深めて、ロータリー活動を再開しよう」です。 このために

- 1、アフターコロナが確実視される 2022-2023 年度、クラブはその独自の活動を復活させ奉仕活動に注力しよう

親睦会などの親睦活動を通して絆を深め、ロータリー活動を再開する

2、奉仕活動こそ会員増強の根源

3、公共イメージ向上は、地域に根差したクラブ独自の活動によってもたらされ、ロータリーブランドの強化へと繋げる

4、活動を復活させたクラブへの支援

以上をもって、「会長エレクト研修セミナープログラム」の報告とさせて戴きます。2022-2023 年度、会員皆様のご理解・ご協力を、よろしくお願い致します。